

第9分科会「我孫子と里山」

テーマ： 生物多様性をはじめとする里山保全と人づくり

日時：2008年2月16日(土)9:30~15:00

場所： 1. 復田報告・基調講演 我孫子市近隣センター「こもれび」
2. 現場報告 我孫子市岡発戸・都部の谷津

参加者： 33名

スタッフ：木村 稔、大畑照幸、山澤賢司、佐藤和文、鈴木邦治

■内 容

1. 「田んぼ広場における取り組み ～地元農業者と市民による復田について～」

今嶋 保雄 氏（我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージアムの会、我孫子市谷津学校友の会）

谷津ミュージアム事業のひとつである、かつての谷津田で行われていた伝統的農業を体験する「田んぼ広場整備事業」の一環として、地元農家の方々にご協力いただき、放棄された水田(約2,500㎡)を復田した。

復田作業は、平成19年1月27日(土)～3月31日(土)の毎週土曜日に農家の方や谷津ミュージアムの会会員、谷津学校友の会会員、公募市民の皆さんと一緒に、ヨシの根の除去、畦づくり、耕運機や手作業による田んぼの耕起、畦周辺の土浚い、灌漑用水のパイプ設置などを行った。

また4月以降、作業に参加された方たちを中心に無農薬での米づくりを行い、9月8日に無事稲刈りを行った。

復田した田んぼで様々な方々に伝統的農業の手法を学んでいただき、今後上流部の休耕田・放棄水田の復田を目指していきたい。



2. 基調講演 「里山の保全現場から～里山の保全と人づくり～」

小林 哲子 氏（横浜市舞岡公園 田園・小谷戸の里 管理運営委員会事務局長）

舞岡の活動形態としては、有償ボランティア(指導員)・無償ボランティアで区分けしている。また無償ボランティアは、約1万人いる。

有償ボランティアは谷戸学校卒業生で構成されており、無償ボランティアはボランティア同士の口コミで集まった人が多い。

谷津ミュージアムの会も、有償・無償ボランティアの区分けも含めて、会としてどのような形態の市民活動にしていきたいか考える必要がある。

舞岡は約25年の歴史があり、様々な問題に関して試行



錯誤を重ね、その成果が実り現在に至っている。

我孫子市の谷津ミュージアムの会は発足してまだ5年なので、これから様々な諸問題が発生してくると思われるが、まず情報を公開し、皆で考え、とことん議論をつくすことが重要である。

また谷津を保全する人づくりを継続的に行っていくことも大切である。

小林氏の話には、非常に説得力があり、今後谷津の保全活動をしていくにあたり、参加者にとっては非常に有意義な講演であった。

3. 現地報告 「復田作業・ニホンアカガエルの産卵場所にて」

我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージアムの会、我孫子市谷津学校友の会

近隣センター「こもれび」から移動し、田んぼ広場内の復田した田んぼにて現地報告を行った。

その後、ホタル・アカガエルの里の水辺に場所を移動し、現場にて報告を行った。

ホタル・アカガエルの里では、ニホンアカガエルの産卵場所や卵塊数の経年変化を斜面、林や水田、水辺の管理方法と関連付けながら詳細な報告を行った。

また、谷津上流部において最近繁茂している特定外来生物のオオフサモを観察し、オオフサモの生態的特性や生態系における影響、今後の駆除スケジュール等を説明した。

